

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2000 四国山の目
FAX 088-821-4834
ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1067 2009年2月号

日頃の森林・林業に関する研究成果を発表

四国森林・林業研究発表会を開催



「学校林を活用した森林環境学習（^{とびが いけ} 鳶ヶ池中学校学校林活動）」を発表した南国市立鳶ヶ池中学校の皆さんは、四国森林管理局長賞（優秀賞）を受賞しました。



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

四国森林・林業研究発表会を開催

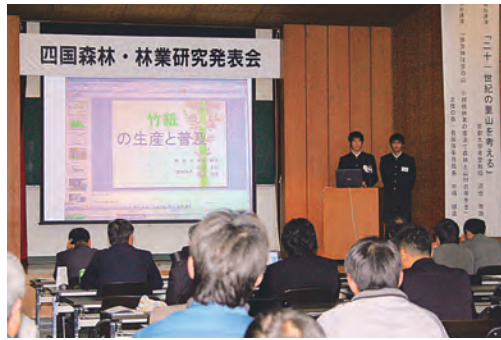
〈指導普及課〉

一月二十二日・二十三日、四国森林管理局大会議室において、「平成二十年四国森林・林業研究発表会」を開催しました。

まず、中山森林管理局長から、今回発表される課題は、国民のニーズに応えた多様な森林づくりや民有林・国有林との連携、ニホンジカ食害防止対策、森林環境教育など幅広い内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林づくり



開催の挨拶をする中山局長



高知農業高校生の発表

などに反映されることを期待します。」と挨拶がありました。五六回目を迎えた今年の研究発表会は、全部で二二課題と昨年より、四課題も多く、特に、ニホンジカによる食害に関する発表が七課題あり、早急に取り組むべき課題であることを再確認させられました。また、南国市立鷹ヶ池中学校、高知県立高知工業高等学校及び高知県立高知農業高等学校から、学習活動の一環として取り組んでいる内容に

ついて発表があり、会場から多くの拍手が送られました。また、特別講演を二題行い、一日目には、京都大学名誉教授の河合雅雄氏による「二十世紀の里山を考える」と題



講演される河合雅雄氏

した講演を行いました。河合氏からは、「国土の約二十%を占める里山が遊休化していることは、まさに国家的損失である。その最大の原因は、野生動物の反乱であり、最近、野生動物（イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルなど）による農作物被害が急増している。里山をどのように再生するかは、大変重要な課題であり、その解決策を提示するのは非常に難しい。一つの試論として、森林資源の活用は、大別して、①生産資源、②環境資源、③文化資源の三つがあり、前二者の活用については、わが国は精力的に取り組む、成果を上げてきた。しかし、森林の文化的利用については、殆ど視野に入っていないかった。

このため、里山を文化資源として新生することが、今後重要である。文化資源としての利活用を加え、三分野を柱にして、新たな里山をデザインすべき」との講演をいただきました。

二日目には、土佐の森・救援隊事務局長の中嶋健造氏による「放置林は宝の山 小規模林業の復活で、森林と山村の再生を」と題した講演を行いました。中嶋氏からは、「自



講演される中嶋健造氏

らの山を自ら整備する「自伐林家」は、とてもいい森（森林の多面的機能を十分發揮する森林）を造る。自伐林家は、自からの山であることから愛情がこもり、頻りに山に入り整備する。また、永く収入を得ようとするために、長伐期施業を指向する低投資型林業となり、不安定な経済状況下でも柔軟に対応できる。最近、注目を浴びてきた、木質バイオマスの収集運搬は、自伐林家の、新たな収入源（副業）

となることがわかった。山村振興のためには、遠回りのようだが、自伐林家的施業をする方々を増やすことが早道ではないか。」との講演をいただきました。

表彰については、四国森林管理局長賞として七課題（最優秀賞一課題、優秀賞四課題、奨励賞二課題）、（社）日本森林技術協会理事長賞、また、（財）日本森林林業振興会長賞としてそれぞれ一課題が選出され、各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞に輝いた高知県嶺北林業振興事務所の諏訪貴信さんの発表は、地域材利用を推進していくための、「顔の見える木材の家づくり」の取組として、先駆的な取組であることが高く評価されました。



最優秀賞を受賞した諏訪貴信さん

なお、今回の発表課題と審査結果は次頁のとおりです。

発表課題・審査結果

発表順	発表課題	発表者		審査結果	
		所属	氏名		
1	地球温暖化傾向に伴うヤナセスギ等の成長促進効果の検証作業について	局森林技術センター	田ノ上真司		
2	身近な自然に親しむことから森林学習の導入について	あきネイチャー 安芸森林管理署	松本 孝 串山大樹		
3	高知城観光案内所の製作	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	山本和之 市原良太 江西宏介	久保勇太 西田佳祐	四国森林管理局 長賞（奨励賞）
4	スギ省力施業技術の研究 ～大苗植栽による施業省力化～	徳島県農林水産総合技術支 援センター	西澤 元		（審査対象外）
5	作業道における丸太組工の桁丸太劣化度 評価について	（独）森林総合研究所 松山水源林整備事務所	脇坂芳夫		四国森林管理局 長賞（優秀賞）
6	景観に配慮した資源林の搬出について	四万十森林管理署	福山敦之 山下茂樹	猪迫啓司 中尾栄二	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
7	「学校林を活用した森林環境学習」（蔦 ヶ池中学校学校林活動）	南国市立蔦ヶ池中学校 3年生	野島真奈美	川上菜央	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
8	森林土木工事で県産材（間伐材）の需要 拡大を～治山ダム・土留工に木製残存型 枠を使用～	愛媛県森林局森林整備課 愛媛県森林組合連合会	西田剛士	山口修司	四国森林管理局 長賞（優秀賞）
9	竹紙の生産と普及	高知県立高知農業高等学校 森林総合科2年生	牛田剛平 円谷友昭	横田明来	四国森林管理局 長賞（奨励賞）
10	土佐褐毛牛と電気牧柵による育林効果の 検証～下刈り効果とシカ害軽減の可能性 について～	高知県森林技術センター	深田英久	渡辺直史	（審査対象外）
11	保護チューブによる成長促進効果と新た な施業方法の検討	局森林技術センター	鷹野孝司		（財）日本森林林 業振興会長賞
12	ニホンジカが自然林の植生に及ぼす影響 について	徳島県農林水産総合技術支 援センター	森 一生		（審査対象外）
13	滑床山国有林シカ被害地の植生回復への 取組み	四万十川森林環境保全ふれ あいセンター	石黒和博	隅田雄二	
14	ニホンジカによる天然林の剥皮被害につ いて～滑床山・黒尊山国有林の森林被害 に関する調査成果より～	（独）森林総合研究所四国 支所	奥村栄朗 伊藤武治	奥田史郎	（審査対象外）
15	法面緑化におけるシカ害軽減方法の検討 について	嶺北森林管理署	瀧本隆太		
16	法面緑化における間伐材を利用した獣害 対策について	安芸森林管理署	浜田淳史	松本充弘	（社）日本森林技 術協会理事長賞
17	木造住宅キット「れいほくスケルトン」 による嶺北産木材のブランド化の取組み	高知県嶺北林業振興事務所	諏訪貴信		四国森林管理局 長賞（最優秀賞）
18	ヒノキ人工林間伐試験地における間伐後 1年目の林分状況	（独）森林総合研究所四国 支所	宮本和樹 奥田史郎	野口麻穂子 伊藤武治	（審査対象外）
19	愛媛県における高度経済成長期以降の農 地の森林化面積の推定	愛媛大学農学部	前田佳子		
20	四国増殖保存園における根切り試験	（独）森林総合研究所林木 育種センター関西育種場	長谷部辰高 藤原優理	山野遼太郎	（審査対象外）
21	製品生産事業等における未利用材（端尺 ・枝条等）の有効活用について	香川森林管理事務所 大西建設（株）	神門淳子 杉本吉久		
22	民国連携による森林整備の推進 ～共同 施業団地での作業道・間伐の事例～	徳島森林管理署 （社）徳島県林業公社	森浦由照 亀井貴志		

第二回「四国山地 緑の回廊」あり方 検討委員会を開催

〈指導普及課〉

四国森林管理局では、設定から五年を経過した「四国山地緑の回廊」の維持・整備、管理及びモニタリング等の今後のあり方について検討を行う第二回目の検討委員会を、一月二三日・二十四日の両日開催しました。

第二回の検討委員会では、一日目に、剣山地区（高知中部森林管理署管内・三嶺さおりが原）のニホンシカによる立木や希少植物の食害の状況と、防護柵内の植生の回復状況などの現地視察を実施しました。

二日目は、一回目の検討委員会で出された意見等に対する考



意見交換会の様子

え方と、今後の当該緑の回廊のあり方の方向について意見交換を行いました。

各委員からは、「今なぜ、連続性を確保しなければならぬのか。」「環境省、関係県及び市町村等と森林管理局とで役割分担を明確にし、実行に結びつける必要がある。」「モニタリングにおいては、動植物の生息・生育状況がしっかりと把握できるように調査を行うとともに、外来種のソウシチヨウ（鳥）等の把握にも留意が必要である。」「一般の国民に、緑の回廊の存在自体が知られていないことから、PRをしつかり行う必要がある。」など、多くの意見が出されました。

検討委員会は今回で終了しましたが、今後は、当委員会が出された意見を整理・取りまとめたいうえで公表するとともに、平成二十一年度以降の四国山地緑の回廊設定委員会に反映することとしています。

親子で「壁掛けづくり

高知市立介良小学校での
森林・木工教室

〈指導普及課〉

一月十八日、高知市立介良小学校において、森林・木工教室を実施しました。



壁掛けづくりの様子

これは、介良小学校から、親子が参加するイベント「ふれあい参加日・介良の祭り」の体験学習コーナーの一つとして、木工製作の体験活動を通して森林への理解を深めさせたいと、当局に森林・木工教室の依頼があったものです。

当日は、森林・木工教室を含め、二十三の体験学習コーナーが設けられ、森林・木工教室には十八組の親子等が参加しました。

はじめに、「木や森林・林業、国有林について」と題して、森林教室を実施しました。森林教室では、高知県がどれ位森林で覆われているか（森林割合）というクイズを出したところ、ほとんどの子どもが、日本で最も低い割合の三二％と答え、高知県が日本一であることに驚いていました。

壁掛けづくりでは、自然の木の実や枝をどのように細工するかについて、親子で話し合いながら、細かい作業に取り組んでいました。中には、早くできた親子もいましたが、のこぎりやナイフの使い方が不慣れな親子もいて、時間ぎりぎりまで奮闘し、有意義な親子のふれあいになったのではないかと考えています。



受賞した兩名（左：田ノ上業務係長 右：佐竹係員）

受賞おめでとう！

国有林野事業業務研究

発表会で優秀賞に輝く

昨年の十一月二十七日、林野庁において、平成二十年度国有林野事業業務研究発表会が開催されました。

今回の発表会には、当局から、次の四課題を発表し、そのうち森林技術部門で、森林技術センター長沢詰所佐竹係員、田ノ上業務係長が林野庁長官賞優秀賞を受賞しました。

受賞した佐竹係員、田ノ上業務係長からは、「さらに森林・林業に対する多様なニーズに応えていくための技術開発に取り組

んで行きたい」とのコメントがありました。発表者の皆さんご苦勞様でした。

発表課題等は、次のとおり
森林技術部門

○平谷地すべり地内のダム構造開発および改良とその成果について（徳島署祖谷川第二治山事業所中脇主任）

○保育作業の省力化についての検討（下刈り・除伐の省力化）（森林技術センター長沢詰所佐竹係員、田ノ上業務係長）

森林ふれあい部門
○三嶺地域におけるシカ被害防止対策について（高知中部署馬門業務課長、新井岡の内森林事務所森林官）

○大道マツ再生の取組みについて（四万十川森林環境保全ふれあいセンター隅田自然再生指導官）

森林管理局の業務紹介 計画課業務について

計画課の主な業務には、①「国有林の地域別の森林計画」や「地域管理経営計画」などの策

定・変更作業を行う計画策定等業務、②保護林拡充等の検討や森林資源のモニタリング調査などを行う自然保護等業務、③財産管理の基本である境界管理や被害境界標の改設などを行う測定業務、④流域管理推進アクションプログラムの実施や民有林などの森林整備に関する協定締結などを行う流域管理システムに関係する業務などがあり、現在、これらの業務を十一名の職員で行っています。

【本年度の取組等】

本年度の計画策定等業務については、「那賀・海部川」、「中予山岳」及び「嶺北仁淀森林計画区」の三計画区に係る地域管理経営計画等の策定作業と「香川森林計画区」外六森林計画区の計画変更作業が大詰めを迎えており、現在、一般の方々に計画書の案に対する意見を伺うための公告・縦覧を行っているところ。今後は県市町村等の意見聴取や有識者の意見を伺う検討会開催等を行い、三月の地域

管理経営計画等の公表に向けて作業を進めています。

自然保護等業務では、現在、緑の回廊の核となる保護林の候補地の検討や生態系ネットワーク形成のための委託調査等を行っているところ。測定業務では、本年度が境界

検測予備調査（平成十三〜二十年（年度）の最終年度に当たることから、二巡目となる来年度以降の予備調査の計画作成を進めています。

流域管理システム関連業務については、これまで締結していた徳島、香川、愛媛県に続き、昨年十一月に高知県と当局との間で「こうちの森づくりに関する覚書」を締結したことから、今後、森林施業の共同団地化や県民参画による森林整備など国有林と民有林が連携・協力した具体的な取組をより一層進めることとしていく所です。

また、平成二十年一月から京都議定書で定められた第一約束期間（平成二十〜二十四年）に入ったことから、間伐等の森林整備を行いながら森林吸収目標を達成するための進行管理を確実に実施することとしています。

計画課は、これらの業務を通じて、今後も「美しい森林づくり」の推進に向けた取組を行ってまいります。

各地の たより



新入生への贈り物

間伐材が机に変身

（ふれあいセンター）

昨年の十二月十日、四万十町立昭和中学校全校生徒三十二名が、地元の下道引地続山国有林で間伐を体験することになり、四万十森林管理署職員とともに指導にあたりました。

生徒たちは、職員から安全作業の心構えを聞き六班に分



新1年生のために間伐体験

かれて、選木、伐倒方向を確認した後、受け口、追い口の順にノコギリを入れていきました。

始めはノコギリがうまく使えず苦労していましたが、次第に慣れて上手に使っていました。

伐った間伐材は、四万十中央森林組合の職員に造材を担当してもらい、その後、林道まで運び、生徒全員でトラックに積み込みました。この材は、在校生の手によって新一年生の机に生まれ変わります。

生徒たちは、間伐を体験することによって地域の基幹産業である林業の大切さや間伐と木材利用の重要性など、森林・林業に対する理解が深まったようです。

上手に作れたよ！

（徳島署）

一月六日、小松島市立目佐児童館において児童二十二名を対象に森林教室と木工教室を開催しました。

最初に、世界の森林状況を表した世界地図や徳島県の航空写真・日本の森林割合が分



上手に作っています

かるグラフなどを使い分かり易く説明をした後、「その森林を守らないとどうなるのかな？」との観点から高知県森と緑の会製作の紙芝居「森」を上映しました。

続いて、除伐木などを利用して作る昆虫（カブト虫）と動物（クマ・イヌ）を製作しました。

参加した児童は低学年でしたが、紙芝居と動物作りの時間には真剣なまなざしで取り組みました。

最後に、児童代表から感謝状と「また、来てください。」と要請を受け、無事に終了しました。

クリスマスリース教室

〔徳島署〕

昨年の十二月七日、徳島森林管理署において、学校や児童館の教職員を対象としたクリスマスリース教室を開催しました。

例年は、一般公募で参加者を募っていましたが、今回は広く普及させる事を目的に、学校関係者や児童館職員に参加者を絞って募集しました。

当日の参加者は県内の高等学校から三名の先生と児童館職員四名を当署職員が手取り足取り、約二時間でモミやカスラなど自然素材をふんだんに使った手作りリースを完成させました。

参加した先生方からは「参加できて良かった。今後、授業等に取り入れたいので協力して頂



手作りのリースが完成

きたい」との言葉も頂き、大変有意義な一日となりました。

クリスマスリースづくり体験

〔高知中部署〕

昨年の十二月七日、県立香北青少年の家において、南国市及び香美市在住の小学二年生から六年生までの十名とその保護者等四名を対象にクリスマスリース作成教室を開催しました。

今回は、あらかじめ編んでおいた葛に、スギ、ヒノキ、モミのうちから好みの葉を差し込み、輪を形作っていきました。これにマツボックリやサルトリイバラの実を飾り付け、完成。手早い子どもたちは、二つ目の作品も完成させ、「家族におみやげが



出来上がった作品を手に記念撮影

できた。」と喜んでいました。また、保護者からは、「短時間で、すばらしい作品が出来るんですね。」との声も聞かれました。それぞれの作品を手に記念撮影をし、笑顔で教室を終えました。

ミニ門松づくり体験

〔高知中部署〕

昨年の十二月二十一日、県立香北青少年の家において、南国市・香美市及び香南市在住の小学二年生から六年生までの十一名とその保護者等五名を対象にミニ門松製作教室を開催しました。

最初に竹の成長や開花など竹の不思議について話し、子どもたちに竹という植物に興味を持ってもらってから門松づくりに取りかかりました。

まず、竹三本を一〇cm程度の長さに切り、ヤスリをかけました。次にサクラやミズメの枝を五cmに切り、竹のまわりに並べ、麻紐で固定させました。最後にゴヨウマツ、ナンテン、ササなどを飾って完成。

子どもたちは、すべりやすい竹を斜めに切るのに苦戦していました。また、保護者等は大きな門松作りにも挑戦し、「想像していたよりも立派な物が出来た。」と喜んでいました。



門松づくりの様子

竹や木の枝を切るのに、思ったより時間がかかりましたが、一時間半ほどで完成させることができ、全員、自分の作品に満足していました。

つるかご編み教室

〔香川所〕

昨年の十一月十七日、古高松南コミュニティセンターの主催で「つるかご編み」の講座を行いました。

当日は、屋島国有林に隣接した香川県立屋島青少年の家に、約三十人が集まり、まず、森林ふれあい担当主幹から屋島国有林や森林、保安林等について説明した後、つるかごの材料とな



好評だったつるかご編

るつるの採集に国有林内に入りました。

参加者は、慣れない森林内で、自分の作りたいかごをイメージして色々なつるを採取するため、高いところのつるを採ろうとしたり、太いつるを何とか切ろうと悪戦苦闘の連続でした。

その後、青少年の家に戻って、思い思いのつるかご作りに取りかかり、太いつるを曲げるためにまた苦戦したりしながらそれぞれが個性豊かなつるかごを作り上げました。

参加者は、出来上がったつるかごを見せ合ったり、お互いのかごを品評したりしながらも、「自分が採ったつるで作ったのがとても楽しかった」「また次も参加したい」と好評で、コミュニティセンターからは、また来年度も実施したいとの申し入れがありました。



森林教室の様子

例年、十、十一月は、小中学校から森林環境教育の支援要請が集中します。中でも、黒尊川源流域の森林である八面山は人気スポット。今年も、四万十市の具同小学校・下田小学校・西土佐中学校・大月町の弘見小学校の四校、計百五十二名を対象に実施しました。

愛媛県側の登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などについて説明しながら、八面山頂上(一、一六五m)を目指しました。頂上での眺望は素晴らしく、南予アルプスの山々が一望でき、登山の疲れも忘れて驚きの声が聞かれました。

フィールドはブナ林 —八面山で森林環境教育— 〈ふれあいセンター〉

その後、近くのブナ林へ移動して、職員が、森林の持つ様々な働きを説明する、文字通り「森林教室」を実施しました。

学習の後のお楽しみは、ブナの大木にロープを架けた特製のブランコ。迫力満点のブランコに初めは怖怖の様子でしたが、徐々に歓声が上がリ、順番待ちの列ができるほどの盛況となりました。

子どもたちにとっては、実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、自然に親しむとともに、改めて水と土を育む森林の大切さが理解できた様子でした。

ウォークイン屋島

香川所

高松市立屋島小学校では、郷土の歴史や風土について学ぶため、毎年、全校生徒が学校周辺の様々な場所に出かける課外授業「ウォークイン屋島」を実施しています。

今年度は昨年の十一月六日に行われ、約七十名の生徒と保護者が、屋島の自然について学ぶため、国有林を訪れました。当日は、紅葉にはやや早いものの、色づき始めた屋島寺の



木の葉や実をスケッチする児童

遍路道を、職員の説明を聞きながら樹木の名前を調べたり、葉や実をスケッチしたりしながら中腹にある弘法大師ゆかりの地「喰わずの梨」まで登りました。

登る途中、森林ふれあい担当主幹から森林の土壌が、落ち葉や腐葉土などからできており、学校のグラウンドの土との違いや、保水や国土の保全に役立っていることについて教わり、「喰わずの梨」では高松森林官から「森林の働き」について教わり、児童たちは熱心に聞き入っていました。

帰りは落ちているどんぐりやマツボックリなどを集めながら下山し、郷土の森や森林について楽しく学べた一日になりました。

「ふれあいの森」で 間伐作業等を体験

〈高知中部署〉

昨年の十一月「物部川二十一世紀森と水の会」が、当署と協定を結んでいるふれあいの森二カ所で、間伐作業等を体験しました。

まず、十一月十五日は、物部川源流ふれあいの森」で保育間伐を行いました。現地は、四十年生のヒノキ人工林で、足場が悪い中、上下作業や接近作業にならないように気をつけて間伐を進めました。また、ツルがらみが多かったため、木を伐つてもなかなか倒れず、かかり木処理に用いるフェリングレバーやロープを駆使して無事伐倒作業を終了しました。苦勞の多い現場でしたが、参加者たちからは、「間伐木の倒れる音がいいね。」「ストレス解消になった。」「また参加したいです。」等の感想が聞かれました。



間伐作業



植付等の作業に参加した皆さん

また、十一月三十日には、「別府・物部川ふれあいの森」でミズナラとケヤキの苗木二百三十本の植付と、クスギのどんぐり五百個を埋めました。当日は好天に恵まれたものの、日当たりの悪い箇所では寒さに堪えながらの作業となりましたが、ベテランの多い参加者たちは、一本一本丁寧に植栽していました。

現地には、事前にニホンジカの食害防止ネットも設置しており、厳しい冬の寒さを乗り越えて、木々が成長していくのを期待しながら作業を終えました。

中学生が職場体験

〔香川所〕

昨年の十一月十一日から二三日の三日間、高松市立紫雲中学校の生徒二名が当所で職場体験学習を行いました。

一日目は屋島国有林の治山現場で治山事業や保安林について学んだ後、下草刈り、枝打ち、保育間伐を体験しました。

二日目は、柘多尾国有林で行われている保育間伐（活用型）の現場で、プロセッサーなどの高性能林業機械を使って行われている間伐作業を見学しました。三日目は、森林環境学習のひとつとして香川所が行っている「つるかご編み」を体験しました。日頃、森林や林業について、



間伐体験の様子

学んだり、目にしたりすることの少ない生徒たちからは、「森林の中は気持ちがいい」「傾斜地で鋸や鎌を使つての作業は大変」などの感想が聞かれました。三日間の体験学習をおして、生徒たちには、林業の大変さ、森林を守ることの大切さなどを理解してもらえたと考えています。

遊々の森で遊ぶ

〔香川所〕

昨年の十一月二十六日、高松市立屋島東小学校の三・四年生六十四名が、「遊々の森・ドキドキわくわくコース」で森林体験学習を行いました。四年生は五月に続いて二度



秘密基地で遊ぶ生徒

目、三年生は初めて同コースを訪れました。

当日は、ターザンロープやハンモックを使つての遊びや枝葉を使つて秘密基地を造りました。生徒たちは、出来上がった秘密基地の中に入り、出来映えに満足していました。

普段、森林の中で遊ぶことの少ない生徒たちは、時間が経つのも忘れて遊び、名残惜しそうに同コースを後にしました。

森林・林業セミナーで講演

〔ふれあいセンター〕

昨年の十一月十五日、鬼北町の成川溪谷休養センター（奈良国有林内）で、南予流域活性化センターによる「第二回南予アルプスの魅力を語る会」が開催され、「南予アルプス友の会」の会員ら約二十名が参加しました。森林・林業セミナーでは、ふれあいセンターの秋山所長が、「滑床山国有林シカ食害地の植生回復」と題してこれまでの取組を説明しました。参加者は、リョウブなどの食害写真を目の当たりにして、あらためてニホンジカの被害に驚いた様子で、熱心に聴講していました。この講演を契機に、

今後滑床山に登った時には、ふれあいセンターの取組に関心を持っていただけるのではないかと期待しています。



熱心に聴講する参加者

「滑床山植生回復

検討会」の実施

〔ふれあいセンター〕

昨年の十一月十九日、関係機関、有識者等の出席を得て、「第四回滑床山植生回復検討会」を開催しました。

今回の検討会は、平成十九年三月にボランティアの協力を得てミヤコササの移植を行った箇所の生育状況等を現地で見ただき、併せて今後の取組について意見・提言を聴くために開催しました。当日は、十一月中旬としては

思いもかけない雪となり、約二時間かけて歩き、山頂近くの通称「たるみ」でミヤコササの生育状況を確認しました。試験地では森林総合研究所四国支所の奥村主任研究員から滑床山周辺のニホンジカ被害の実態やこれまでの調査結果等の説明がありました。参加者からは、「ササが活着していない箇所には再度移植をしてみても」「被害を受けている箇所が近隣にも見受けられる」「防護ネット内にもアセビが多いが、アセビはそのままでも良いか」など多くの意見が出されました。今後の取組としては、継続してモニタリングを行うと共に、提言された内容について、有識者の意見等も聴きながら検討をしていくという方向性を示し閉会しました。



雪の中での検討会

西熊山のモミを ニホンジカから守る

〔高知中部署〕

昨年の十二月七日、「特定非営利活動法人 我が家を見直す会」のボランティア十八名が、ニホンジカの食害から西熊山の歩道沿いにあるモミを守るために、木の幹に防護ネットを巻き付ける作業を行いました。

当日は、前日に降った雪のため、当初予定していた間伐作業を取り止め、ネット巻きのみを行いました。約六十本のモミの木にネットを巻いた後、「森の巨人たち百選」に選ばれているイヌザクラがあるさおりが元の天然林の中を散策して、街の中では味わえない自然の豊かさを満喫しました。

参加者は、これまでの体験から「間伐を行うことによりすごい達成感が味わえる」と間伐



ネット巻きの様子

を楽しみにしていましたが、それがかなわず残念そうでした。しかし、ニホンジカ食害対策の作業を行ったことと、この時期にはめずらしい三嶺の雪景色を楽しむこともでき、「来て良かった」と誰もが満足顔でした。

ヘリコプターでシカ食害 防護柵の資材運搬

〔高知中部署〕

昨年の十一月二十日、三嶺の麓のヒカリ石から、標高千七百m近くある高知県と徳島県の県境稜線部、カヤハゲと蕪生越などにヘリコプターで、シカ食害防護柵の資材を運び上げました。前夜に降った雪で一面の銀世界の中、ヘリコプターの飛行が心配されましたが、荷下ろし地点の天候は良好で、計画どおり実行されることになりました。

応援していただいたボランティアの方と署の職員は、林道の終点から積雪のある歩道を二時間三十分余り歩いて荷下ろし地点に到着。それぞれが資材降ろし作業の配置につきました。ヘリコプターによる運搬は、



ヘリコプターによる資材運搬の様子

強風がおさまるのを待つて予定の時間より遅れて開始しましたが、無事五十分余りでシカ食害防護柵千四百m分の資材を運ぶことができました。

高知中部森林管理署では、これまでにニホンジカによる食害が顕在化している「四国山地緑の回廊」の西熊山周辺において、地元自治体やNPO、ボランティア等と協働でニホンジカの食害防護柵（ネット）等の設置を行ってきました。その結果、防護柵を設置したところでは、希少植物等の植生が回復するなど一定の効果が確認されています。今回、人力では資材運搬が厳しいこれらの箇所に防護柵を

更に増設するため、ヘリコプターによる資材運搬を行い、春の雪解けを待つて防護柵の設置を行いますので、多くの方の参加をお待ちしています。

『祖谷のかずら橋』架け替え 資材確保の森づくり シラクチカズラの植栽始まる

〔徳島署〕

昨年の十一月二十六、二十七日に徳島県三好市東祖谷の栗枝渡国有林（天然林）において、祖谷のかずら橋・架け替え資材確保実行委員会と地元有志、公募のボランティアによりシカの食害防止のネット張りの作業とかずら橋の材料となるシラクチカズラ（サルナシ）の苗木九百十本の植栽を行いました。

祖谷地区には「祖谷のかずら橋」一奥祖谷二重かずら橋の二カ所に三本の橋があり観光名所として賑わっており、三五年に一度、かずらの架け替えを行っています。しかし、材料となる「シラクチカズラ」の減少が著しいことから、かずらの育成に国有林の活用を三好市に提案し、昨年三月に協定

を締結、三好市の策定した年間活動計画に沿って活動しています。将来のかずら橋候補の苗木は、冷たい雪が降ってもいいように枯葉でくるむ防寒対策を行い、材料として使えるその日に向けてデビューしました。参加者は、朝早い集合と真冬の今にも雨が降りそうな天候の中で作業でしたが、全員笑顔で「早く大きくなれ」と願いを込めて山を後にしました。今後は、植栽した苗木の生長を観察すると共に、安定的確保と資源の育成を図るため来年度以降も移植を続ける予定です。



シラクチカズラの植栽の様子



白髪山から西熊山を望む



三嶺～西熊山稜線

当署は、高知市から車で国道一九五号線を北東に向かって一時間半ほどのところ、旧物部村の大筋に位置しています。

当署管内は、徳島県との県境に三嶺（一八九三m）、石立山（一七〇七m）、網附森（二六四三m）等の主峰が連

なり、一級河川物部川の水源をなしています。国有林はこれらの山系の中腹以上を占めており、森林植生は、ほとんどが温帯性のモミ、ツガ群系で占められています。一部徳島県境付近に亜寒帯のシラベ、タケカンバ群系に属するところがあります。



三嶺避難小屋付近

人工林はスギ、ヒノキが植栽されており、年間三千ミリを越す降雨があることから、

標高の低い林分は良好な成長を示しています。

また、希少な植物が生育するなど国有林の中で特に優れた自然環境を有する森林は保護林とし、適切な保護・管理に努めています。四国森林管理局では、平成十五年三月に、保護林を連結してネットワークを形成し、広範で効果的な森林生態系を保護することを目的として、石鎚山地区と剣山地区において総延長一・二八kmに及ぶ「四国山地緑の回廊」を指定しており、当署管内も三嶺を中心に剣山地区として約四〇〇〇haが設定されています。

このような管内の国有林は、地形が急峻でV字溪谷が多く、その眺望と相まって三嶺のコメツツジ群落、西熊山のケヤキ・ブナの紅葉、雄大な石立山、母性的な優しい山容の矢筈山、整った姿の白髪山などに四季を通じて多くの登山愛好者が訪れます。



トチノキ



イヌザクラ

さらに、三嶺のふもとの通称「さおりが原」には、「森の巨人たち百選」に選ばれた推定樹齢二五〇年以上のトチノキとイヌザクラの巨木があります。これらの巨木も皆さんをお待ちしていますので、ぜひ訪ねてみませんか。

『皆伐跡地における 針広混交林化への更新技術の開発』

〈森林技術センター〉

技術開発の主な取組について、平成二十年度は六回シリーズで紹介しており、今回はその第五弾です。

【目的】

現在、森林に対する国民の

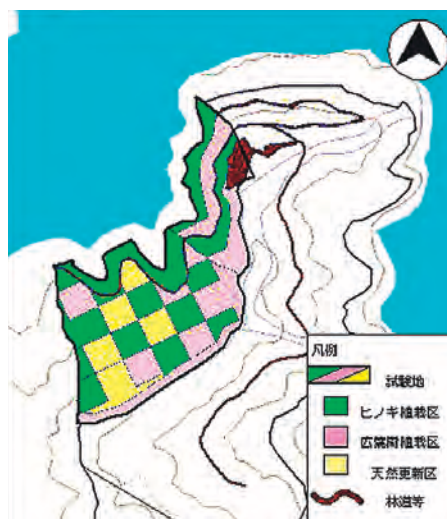
ニーズが多様化する中、森林の有する多面的機能を發揮する上で、針広混交林化、広葉樹林化など多様な森林への誘導が求められています。四国局管内の国有林は、人工林率が七〇%を超え、単層林も多



試験地の全景

いことから、広葉樹を導入した針広混交林化に向けた取組を一層推進していく必要があります。

ことから、皆伐跡地からの針広混交林造成に向けた更新技術の確立及び普及に取り組んでいます。



試験地のイメージ図

【試験地】
高知県香美市立割不寒冬山国有林一〇六一3林小班

【試験内容】

皆伐箇所（分取育林跡地）に帯状・群状のヒノキ植栽区を設置するとともに、ヒノキ植栽区以外の高木性の広葉樹導入箇所については、天然更新と苗木の植栽を実施します。

【これまでの試験結果】

平成十九年度に、植生プロット（二m×二m）を六箇所

設置し、植生調査を実施しました。伐採後一年以上経過していましたが、各プロットとも樹種数、植生本数ともに非常に少ない状況でした（樹種数一八種（高木八種、中木五種、低木五種）。プロットの周囲も植生本数が少なく、種子の飛来や鳥獣による種子散布は困難であると予測されます。天然更新による広葉樹導入箇所については、試験の経過を観察しつつ、必要に応じて手を加えながら、早期の成林を目指していく考えです。（注）針広混交林とは、針葉樹と広葉樹が混在（概ね二五〜七五％）した森林。

単層林とは、同一樹種からなり、樹齢や高さがほぼ等しい樹木から構成される森林。複層林とは、樹齢や高さの異なる樹木で構成される森林。

合格おめでとう！

平成二十年度森林インストラクター資格試験の結果が発表され、徳島森林管理署の森田朱音さん、安芸森林管理署の福長絢一郎さんの二名が合格されました。今後、益々の活躍を期待します。

全国山火事予防 運動のお知らせ

〈国有林野管理課〉

○統一標語

「見直そう」

森の恵みと

火の始末」

○実施期間

三月一日～三月七日

春先は空気が乾燥し、風の強い日が多く、入り込みも増加する傾向があることから、山火事の発生しやすい時期となります。関係機関と協力し、森林パトロールを実施する等、山火事の未然防止や早期発見に努め、国民共通の財産である森林を守りましょう。

「地域管理経営計画」(案)等の縦覧のお知らせ

〈計画課〉

国有林野の管理経営に関する法律第6条第4項、国有林野管理経営規程第6条第3項及び第14条第5項の規定に基づき、那賀・海部川森林計画区、中予山岳森林計画区及び嶺北仁淀森林計画区の「第三次地域管理経営計画」の策定案及び「第三次国有林野施業実施計画」の策定案を下記により縦覧の予定です。

また、香川森林計画区他6の地域管理経営計画の一部変更案及び国有林野施業実施計画の一部変更案についても、下記により縦覧を予定しています。ご意見がありましたら、下記3のとおりお送り下さい。

記

1. 縦覧期間

平成21年2月3日(火)から3月5日(木)(平日9時～12時及び13時～17時)

2. 縦覧場所

(案)	森林計画区	計画書の名称	縦覧場所
策定	那賀・海部川	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、徳島森林管理署
	中予山岳	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、愛媛森林管理署
	嶺北仁淀	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、嶺北森林管理署
変更	香川	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、香川森林管理事務所
	今治松山 東予 南予	第三次計画書 第三次計画書 第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、愛媛森林管理署
	四万十	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、四万十森林管理署
	高知	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、嶺北森林管理署 高知中部森林管理署
	安芸	第三次計画書	四国森林管理局企画調整室、安芸森林管理署

3. 意見書

- (1) 提出先 780-8528 高知市丸ノ内1丁目3番30号
四国森林管理局長あて(企画調整室扱い)
- (2) 提出期限 縦覧期間の最終日までに必着。
- (3) 記載事項
 - ア 意見のある計画区名
 - イ 意見提出者の氏名、住所、年齢、職業、電話番号(法人その他の団体は、その名称、代表者の氏名、団体の目的、主たる事務所の所在地、電話番号)
 - ウ 意見は、具体的かつ簡潔に記載
- (4) 意見の処理方法
 - いただいた意見は、計画策定時に参考とさせていただきます。
 - また、計画の公表と合わせて意見の要旨及び処理結果を公表します。なお、いただいた意見に対する個別の回答は致しかねますので、ご了承願います。
 - 意見をいただいた方の氏名等については、一切公表いたしません。

4. 問い合わせ先

その他詳しいことは、四国森林管理局計画課(電話088-821-2100)までお問い合わせ下さい。